磐城之民聲

發行日 一、十一、廿一（毎月三回）
編輯兼發行印刷人 齋藤角治
福島縣平町南町七十八
發行所 磐城之民聲社
廣告料 普通一行五十錢 特別 七十錢
一部十錢一ヶ月廿錢送料共

今秋の縣議戰展望

前述の如くにして關内氏は井上縣議の後繼として立候補を宣すべきは明かなることであるが石城郡内に於ける政友派は新舊二派の内紛ある關係上頗る興味ある候補者の顏振れに伴ふ各主領連の策戰掛引こそは頗る刮目に與へするものがあらふ。即ち鈴木代議士一派は關内氏の立候補を悦ばざるは勿論のことにして大勢蓮沼龍輔氏を推すものと見られてゐる。郡北よりは舊政友派の田子健吉氏の再出馬を見ることは既定的の事であり、鈴木派としては關内氏同樣行掛り上好意を寄せぬものと思はれる。而して郡南から赤津庄兵衞氏、山崎登氏の呼び聲盛んであるが亦安島久氏も有力なる候補者の一人として囑目されてゐる模樣であるが茲一番壯にして郡南の麒麟兒としてその敏才迸る山崎氏を送りて議政壇上の花形役者として賢腕を奮はしむべく郡内政友派青年は熱心に同氏の出馬を促してゐる。而して民政黨側としては捲土重來を期しつゝあつたといふ四倉町議吉田壽三郎氏出馬説の流傳されつゝあるが、之れが果して事實であるとすれば野崎氏との從來の義理合上面白からぬ結果を生ずべきは論なく、まさか吉田氏の賢にして此は事實として表現化すべき筈なきは推定に難くない。結局は民政四、政友四の對立によつて火蓋は切つて落され、秋野の陣中火花を散らしての激戰は演出さるゝことゝならふ。

珍風景 ― 富岡町政問題
此所に正しき批判を下して 町民諸氏の覺醒を促す

從來險惡の空氣漂ふ中に久しく行惱みの狀態にあつた富岡町長問題も、過般に於ける決戰投票の結果早川清ヶ氏の再任を見ることになるや、鈴木兵彌氏派五名の議員は連袂辭職をなすに及んで愈々空氣は振動し五名等側によつて町民大會は開催さるゝ段取りとはなつたが果して大會を開催して町民に問ふ眞精神の根據何邊にありや…忌憚なく此所に批評を與へんとすれば自分等の支持する鈴木氏を擔きそこねたるによる一幕の芝居である苟も町代表として町民の要望を據ひ町政に携る以上徒らなる策動を之れ事とするが如きは町民を愚弄し盡すも甚しと言はざるを得ず。而して議員の職責にある以上、決選投票に破れたる上は宜しく速かに町長の就任を望み堂々議場に其の施政方策を檢討し燎原の火の如く小町民の輿論を背景として現下の町政に匡救にして忠實なるに於て職分を完ふし深切なる町民の代表者たるを得べきである。然るにカラ煙火の如く啻なる音のみにして大會は有耶無耶に散會したる之れ事態が少くとも町民を騷がしたる責を負ふべきである。

仄聞する處斯る空鐵砲によつて溫順なる早川氏に迫り其の就任を苒荏せしめ結果町長が就任せざる言質によつて此の條件のもとに復職したりと云ふ。

而して此の一派に如何なる採算ありや、曰く來るべき八月の町選擧に備ふる背水の陣により野望を充たさんとする？

斯の如きは徒らに町自治體の精神を滅却し單なる野望充實のためにのみ汲々として町民を無視するも甚しいといふべきである

惠まるゝ 錦村、植田町附近一帶と 昭和人絹工場

期待に期待を重ねつゝあつた昭和人絹工場も華々しく其の實現を見るに至り之れによつて受くる地方一帶の稗益は甚大なるものあるを思はしむ。而して左に人絹會社の有利なる業態を揭げ以つて一般の參考とする。

人絹事業とはどんなものかと云ふに、大正の初年米澤市に東[illegible]となつてゐる我國最大の規模を有する帝國人絹系會社の前身であるのだ。然して製造原價は一封度八十錢內外で大體次ぎの如き構成割合とのことである。

原料代……一四%
藥品代……二二%
勞銀……二五%
燃料代……一一%
電力費……九%
用水費……四%
營業費荷造費一五%
合　計……一〇〇%

製法を省畧すれば綿花又は木材パルプを種々の藥品で處理溶解し、その溶液をパイプにて紡糸機に導き壓力を加へて微細なる孔より空中又は凝固液中に噴出せしめ凝固させ其後は水洗ひ、脫色、洒等の工程を經、あとは絹糸紡績と殆ど同樣に揚枠紐造り、選別などの順序に依つて市場に搬出されるのである。國內需要關係は正に躍進的發達で累年增產を示し五千万封度に激增してゐる。この人絹の名稱はレイヨンで通つてゐるがレイヨンとは佛語の光澤といふ意である錦村は本當の錦の村と愈光澤を放つことであらう。之も全く貴族院議員に金成通氏を送つた地方の利得とでも云ふべきである

久
釜屋金物店
平町五丁目
電話九・九九番

『庶民の好相談相手として』
愈々業績を擧げつゝある 一德合資會社
支店長白石氏の人格も伴ふて

一德合資會社が平に支店を開設して既に一週年余日を迎ひ『皆樣の良い相談相手』として便宜上益々努めてゐる關係上、茨城大津、小名濱等に出張所を設け業績の實を示してゐるが、支店長は半世を教育家として子弟教養のために努力された教育會の功勞者である丈けに社是業務總てに怠る處なく相互稗益のため盡瘁されつゝあるが氏の識見力量と而かも木綿衣に甘んじて默々の中に活躍されつゝあるその全貌が總てを立證してゐる。

比佐代議士 無二の親友として
節義を重んずる 根本林平氏

大内鄕村、中堅人物の幹部として青年教育社事業のため眞精神に生きつゝある根本林平氏は、比佐昌平氏とは同窓であり竹馬の友であるが、氏は泣くも笑ふも比佐氏と心境を共にし今日に至つてゐる友情溢るゝ快男である。今營業とする仕出業の如き全く社會奉仕的なので彼の繁忙さを見せてゐる從つて林平氏の意を體して一家擧つての働き振りにも感心させられる。

初夏の新舞子とそして四倉へ

白砂には色とり〳〵なる夏草の燃え出るありて、いつくとも啼く鶯の聲など亦朗かに聞雅致自らなるを誇る日本百景之一、新舞子の風姿こそは筆紙に盡し難きものがある。老松三列伍々として雅趣そのまゝなる綠枝を交へ林、中亦清きに過ぐるゆるのである。林間より濱邊に出てゝ海洋を望めば、微風を孕むで滑るが如くに走る眞帆片帆に風情ありて繪の如しとも譬ん樣なし。長汀には浪靜に訪れて凉味云はん方なし。蜿々里餘の曲連する白砂、無心に戲むるゝ子等が、思ひ〳〵に貝殼などを渚に拾ひ集ふ樣、全く浴塵の想ひを忘失せしむ環境中の仁井田浦に靑菰を左右して潑剌として鯉は跳る。海洋の風致に思ひを殘して亦川魚の味を食膳に味ふ快味は此所ならでは得も難き事共もであらう。淸遊を終え一夜を浪枕靜なる四倉海水の旅宿に過すことも可ならん。

新舞子迄
―平驛より自動車の便により約卅分入口迄
―四倉驛より海邊を辿つて約廿町
―四倉よりも新舞子入口迄で自動車の便あり

民聲春秋

◇過日の某紙上夫より預かつた一圓二十錢を紛失したゝめに親子心中を遂げたとあつた三原山の心中とは一寸趣が違ふ徒らに紅帳翠裏の夢に白粉の香を慕ふて一夜に百金を投ずる遊野郎よ社會的に惠れざる可憐の者に對しせめて一圓札の一枚も投げだす氣はないか

◇久之濱でも學校問題にからんで町長辭職、而して再選、富岡町もこれと同樣……近頃コンナ事が流行し出したかナ

◇夏來つて秋來る縣議戰も餘す處三月の後ちとはなつた、表面に悠氣分を見せ裡面に探りを入れる事が戰の習ひであると。ポツ〳〵處が各方面に向つて潜入の手は動きつゝある樣だ

◇此の間湯本石川町長の居を訪ふた時襦袢一枚で盛んに糞杓子を振り廻し畑の手入れをして居たのが町長夫人だ、町長夫人としては大出來であると思つた。內に在つては家計に努め、外に在つては寢食を忘れて社會事業に奔命する名町長の夫人として誠にふさわしい

◇或る處で記者が二、三の人と會合してゐた時の事だつた。頭へ酒を呑んだ一老人が年の程も省みず盛に人の批評をしてエラがつてゐた。果して此の隱居、人を評するの資格ありや、年を取つてから御馳走酒だからつて無暗にのむと中風と云ふ病氣になるぞ。

若葉會
義太夫さらいを聞くの記

平方部及び小名濱、湯本、双葉地方の名士、有志、花柳界の人々によつて組織されてある「若葉會」の大ざらいが過日平聚樂館に二日開催され、先づ華かなる舞臺裝置と各有志から贈られた美しい花輪でさしもに廣い舞臺も埋まるばかりの華かなる人氣漂ふ。木戶には平素嚴めしさに似もやらぬ山野邊辯護士ニコ〳〵顏で客を招ずる姿も見え總帥格の世界館の鈴木館主、永山勇次郎氏など汗だくの懸命で受付をつとめる。定刻前と云ふに遠近よりの入場客で場內は滿員となる、やがて定刻ともなれば吉例により入登太夫の語りに初まつて咽自慢、節自慢の名々が各々特意の讀物を殊勝に語り終ふせる。熱心な稽古の跡も見えて何れも上手だつた。中に「井坂氏」(瓢)のお俊傳兵エが黑入洗足といふ上出來だつた、ツレ引に合せて猿廻のうた、暖ふあたり陶醉させられる程のうま味があつた。外「郡司」(六市)色男の佐傳さんの酒屋など殊によかつた。お大「錦祥」の合邦されば定評ある聞きものでヤンヤの喝采を博した。

○社告○

近來本社員と詐稱し廣告を募集し居る者あるを風聞するも本社は社長、主幹以外一名の外交員も使役致し居らず候間斯る者のため御迷惑を蒙らざるよふ社告候也

磐城之民聲社

面目躍如……石城の天地を飾る人々

平町　關内正一氏

實業界の雄にして縣下に於ける一代の寵兒である政治的手腕百パーセントの人物として活躍されてゐる。

今秋の縣議戰には一般大衆の要望を擔つて雄々しく出陣せらるゝと聞く、快なる哉。云ふ迄もなく平素に於ける氏の信望に富むる立派な行爲と一頭角を拔く才腕の所有者であることに所以するものである。

四倉町　栗原欣治郎氏

本縣下に於ける電氣業の元勳として知らる氏は終生を斯業界のために盡粹される人として信望を有し愈々出てゝ益々健鬪怠りなく平電力社長として現小玉川水力の完成を期し事業の擴大と福利を畫してゐる。

平町　諸橋元三郎氏

磐中十六回卒業後早稻田大學出身の逸材である。彼の悠容として迫らざる堂々たる態度ながら石火の如き頭腦のきらめきと呵々談笑される一言一句にも無駄はなく寧ろ相手をして畏敬の念をさへ起させしむ。實にや福島實業界の覇者、釜屋王國の名は令兄諸橋久太郎氏の信望と氏の資才とに相俟つて一層輝しく向揚を續けつゝ萬代の礎は築かれてゐる。

趣味として『讀書三猿文庫』が總てを物語つてゐる。偶々數里の徒歩旅行もされる。近頃は古代器の研究も初めたよふである。

炭礦主　小田吉治氏

堅忍不拔、不撓不屈といふ文字が此の人の全貌を物語つてゐる。是れあつて一代にして百萬の巨富を積み、愈々出て益々大成を目指して躍進を怠らないその勇志こそは百讃に與へするものがある。而して平常至つて質素に勝つて尙且つ兜の緒をしめてゐる事に氏の偉い處がある。社會公益の爲めにも盡粹されつゝある立派な人物である。

平町　萩原申八氏

常磐炭礦界の明星として輝く同氏は人格の上から見ても識見力量の上から觀ても確かに炭礦界に一頭角を拔いてゐる人物である。隨つて經營する炭礦は日を追ふて隆昌を誇り慈父の如き氏の温情は悉く何百の使役人の頭中深く注入せられ全山擧げて一家の如き和氣に充ち滿ちつゝ氏の德望を体して懸命に活動を續けられてゐることも亦容易に他に見得られぬ美点である。

小田炭礦萩原鑛業所の雄　人事係長　熊谷武廣氏

飽く迄でも負けじ魂のあらはれであるその威貌は克く氏の全貌を物語つてゐる。然れども氏は威あつて猛からざる人者として親しく所長萩原氏の意を体して人事係長の要職を恥かしめない人である。故に氏の監督下にある使役人の全般は之れ命之れ從ふの柔順さを示し氏の職責を一層輝かしくされてゐることが同氏の識見と材幹を物語つてゐる。

平町　萩原義雄氏

磐城民政黨幹事長としての眞錄滿点であることは一糸亂れざる黨統率の上に明かに之れが表證されてゐる。即ち政治的にも異彩を放つてゐる識見手腕に富むだ賢才である。現縣會議員、平町會議員中の雄として縣政、町治に奔命されてゐるが、實業方面にも信望を有し磐城片倉製糸重役を初め各會社の重役として樞要の地位に在る。氏は東京齒科專門學校を優秀なる成績に卒業後平町に開業本縣齒科醫師會長として選ばれた德望ある人格者である。

小田炭礦萩原鑛業所從業員　伊藤猪之五郎氏

氏を評するに『快男』の二字を與へたい。氏は年齡壯々今が働きの眞盛りである。曾つては常磐炭界の大親分として撓名を馳せた菊池寅五郎氏の懷刀として今も尙情義溢るゝ先輩愛の念慮に燃えつゝ目まぐるしい勇躍を續けてゐる。謂哉所長萩原氏の信任も頗る厚しと聞く、將來に大をなす人物として一般から囑望されてゐる。

植田町　坂本龜太郎氏

郡南の德望家として今秋の縣議戰に候補として送らるべき識見力量俱に備はる紳士である。營業とする醬油釀造業は追日隆榮に過ぐるものあり。先づ一度氏の温容に接し見よ何人も氏の立派な人格の所有者であることに敬服の念頻りなるものがあらふ氏亦政治的方面にも民政黨の重としての郡南に活躍を續けられつゝある。その表れとして植田町に建設された最も意義深き名稱たる磐州會館の建設委員長として盡されつゝあることは周知賞讃の事實である。

植田町　中山組

中山組の大は土木工業界の重として周知されある事實であるが近來に於ける其の躍進振りこそは特筆大書に價するものがある見よ昭和八絹工場請負大工事に於ける些の批難もなく隆々として萬全を期し斯業界稀に見る成績を擧げてゐるが、こは云ふ迄もなく中山氏の才腕信望と相俟つて結束堅き組員の努力も併せて賞揚すべきものであらふ。

植田町　山崎登氏

玲瓏赤トンボの如き明敏なる頭腦の所有者であり、一見小貴公子然たる人材である。家康に於ける本多佐渡守の如く金成上院議員の相談役として實業界に傑出してゐる。今秋の縣議戰に郡南政友派より推され頻に出馬を慫慂されゐるが、氏は謙遜自重されてゐると聞く。

小名濱町　小野晋平氏

縣内外を通じての實業家であり人材として認識されてゐる堂々たる實業界の先輩である。氏は小名濱の城主としてその威令悉く行はれ『小名濱商港の實現』『平小鐵道』の布設、町運河開鑿曰く何々、一つとして氏の才腕の逝る處可ならざるなきを見てもその如何に信望の全般が窺知さるゝ事共である。而して氏は絶對に自已本位を避け社會公益の爲め寢食を忘れて躍動されつゝある當代に得易からざる人物である。

四町倉　菅波末吉氏

本縣漁業界の耆宿前組合長長谷川長八氏の後をうけて現在に於ける組合の隆昌を成した德望ある漁業家である。氏は常に組合の統率に留意怠りなく組合員を指揮激勵して愈々其の堅實を計つてゐるが、尙四倉町會議員の重として町政の向上に努めてゐるので一身に町民の信望をあつめてゐる。

平町　高階一郎氏

常磐炭礦界の最古參者として斯業界に重をなす人、曾つては五十嵐炭礦主五十嵐氏を扶け所長としての手腕を見せ、同炭礦を現在の如く泰山の安きに置かれた賢才であるが、功なり名遂げて同礦を退いた後ち内郷地内にある擴大にして優良炭を埋藏する鑛區を買收し高階炭礦と名銘し數ヶ月前より着炭の運びに至つたが、日常の氏の德風信望を知る者から着炭早々全山は興隆氣分に滿ち充ちてゐる。

内郷村　杉山今朝吉氏

新聞雜誌などで下手な提灯記事でも書こうものなら、そふしたものは手にも觸れず顔を背向けて錄な挨拶もせぬ謙讓美德に富むだ人格者である茲に忌憚なく氏を評するなれば、餘りに偉ら振らざる眞劍味と實生活に生きる器量人と云ふ事が的つてゐよふ。前きには大内郷の軍人分會長として精神教育の信念に生きて一會の人格を高め悠々とし迫らず大成を期して專念事業の隆昌を畫してゐるのであるが、今や氏の語らざる眞劍味と信條としてはその業績の旺んなることが之れをよく物語つてゐる。

來勿町　小松章氏

氏は郡南に於ける有數の人格者として信望を一身に聚めてゐることは平常に於ける氏の行動が明かにその全貌を現示し盡してゐる。今秋の縣議戰劈頭郡南より民政有力候補として擁立されゐると聞くが、氏は尙早なりと固辭して之れを受けざる模樣であるが、氏の如く公正にして而かも識見力量を有する人材としての活躍を切望する。

祝磐城之民聲社發展

石城郡町村長會

貴族院議員　金成通

縣會議員 玉川村長　野崎滿藏

縣會議員 湯本町長　石川德壽

四倉町長　新妻盛

植田町長　古川傳一

植田町　鷺清昇

植田町 木材商　秋山市造

江名町長　河野嘉造

四倉町會議員　吉田壽三郎

植田町 七木請負業　成瀨組　成瀨巴三

平町會議員　高橋龜松

主治効能　腦病、胃腸病、婦人病、リウマチス、神經痛、

ラジウム　萱手鑛泉　常磐線泉　電話十一番

日本農業株式會社取引店　小野藥舗　平町五丁目　電話一四四番　クスリは小野

植田町　野村醫院

植田町　藝妓屋組合

湯本町　カフエー藝妓屋　つた本

平町驛前丸山デパート角　カフエー　福壽軒　電話二一八番

平町イワキ共濟病院側　公周施業　長谷川辰之助　電話五七八番

東部電力平營業所　就任挨拶　所長　中島正雄

水戸井傳釀　フジ井醬油地方釣部　丸井株式店　平町田町　電話四六番

土木・建築　設計請負業　技師　塩谷茂雄　石城郡平町十五丁目　電話四八〇番

川崎南堤根　石山ムシ寵製造本舗　川崎工場主任　石山忠三商店　平町材木町　電話一三七番

四倉町著名　海水浴旅館　海氣館　柏屋　太平館　旭館

祝　鹿島村小學校　落成式

相互扶助機關　石城中小商工互融會　福島縣平町搔槌小路一番地

會長　吉田定正
石城神職會々長　吉田昌弘
役員　渡邊太次郎
仝　野木伊惣治
仝　金成孫右工門
仝　北郷廣作

土木建築請負業　强口唯七郎　平町田町　電話二八二番

中村自動車修繕工場　平町白銀町　電話四四九番

機械商　田邊商店　平町白銀町　電話二九四番